

緑の募金へご協力ありがとう

総額 **38万9,968円**



▲集めた募金を手渡す児童（写真は白石小松岡政晃君）

4月1日から5月31日までの期間で行われた「緑の募金」は、村内の各家庭、事業所、学校などから協力をいただきまして、平成14年度の「緑の募金」の募金総額は38万9,968円となりました。

6月には村内の小・中・高校の生徒たちが役場に訪れ、それぞれの気持ちのこもった募金を村長に手渡しました。他にも村内12の事業所からも多くの募金が寄せられました。

今回集められた募金は、いったん県の緑化推進委員会に集められ、その後「緑の募金交付金」として各小学校に交付され、様々な緑化運動推進のために使われます。

みなさんの善意に感謝いたします。

協力いただいた事業所（順不同）

㈲信和建設
㈲渡建工業
㈲英工務店
カクダイ建設㈱
濱田建設工業㈱
神尾建設㈱飯館支店
㈲長谷川電気工事
後藤建設工業㈱
㈲鹿山電気商会
庄司建設工業㈱
JAそうま
飯館総合支店
飯館村社会福祉協議会
飯館村森林組合

こころのぽけっと

「はなれてみて」

今、老人いこいの家「やすらぎ」で「親のありがたみがわかる事業」が実施されています。変わった名前ですが、一言で言えば、小学生の「合宿通学」です。つまり、子供たちが「やすらぎ」に10日間泊まり、そこから学校に通うのです。当然、米をとぎ、ご飯を炊き、おかずを作り、茶碗を洗い、掃除洗濯、ふとんの上げ下げも全部自分でしなければなりません。

「今朝はご飯がうまく炊けなかった」「大変だ」「あー家はいいな」という体験から「ありがたみ」がわかってもらいうということになります。

現代はいい世の中になってしまいました。したがって、私も含めて親は子に甘くなっています。

「親御さん、しっかりしてくださいよ」と言い続けなければなりません。責任を親だけに押し付けても解決にはなりません。

せん。ですから、少しでも村でそのお手伝いをし、親や村の思いを子供に伝えていくことが大切ではないかと、始めた事業です。

ところが、子供たちには確かに「親のありがたみ」がかなりわかったようです。期間中、一切の電話や訪問は（呼ばれない限り）ダメと言われている親の方が「今ごろどうしているかな……」「大丈夫かな？」と心配で心配で、むしろ「子のありがたみがわかる事業」になってしまいました。

一緒にいると感じないものが、少し離れてみると相手の大切さが改めてしみじみわかるということ、夫婦にも通じる話ではないでしょうか。

「若妻の翼」も10日間飛びます。きっと新しい「ありがたみ」が発見されることでしょう。

平成14年6月25日

飯館村長 菅野 典雄